自分を守る！	▶初動体制の構築	社員に対する教育・啓発・訓練を行う

003 流雪溝を生かした地域内共助の醸成

取組主体	従業員数	想定災害	実施地域
苫前町まちづくり企画	４名	雪害	北海道

この取組のポイント

- ✓ 多様な関係者と流雪溝の運用を検討
- ✓ 投雪イベントで共助意識を向上

苫前町まちづくり企画は、平成 28 年より、北海道苫前町において流雪溝を利用した地域活性化を行っている。

1 取組の特徴（特色、はじめたきっかけ、狙い、工夫した点、苦労した点）

町内の若手が流雪溝を生かした地域内の協働体制を構築

- 流雪溝（側溝内に投雪した雪を河川等まで押し流す施設）の整備により、豪雪地帯における道路利用等の安全を確保することができる。流雪溝をスムーズに運営していくには、行政と地域のパートナーシップが重要であり、そのための地域内の協働体制の構築が求められている。しかし、苫前町では、過疎・高齢化により、流雪溝の利用が停滞していた。そこで、若手町民有志による同企画は、流雪溝利用と地域を活性化させる取組を開始した。
- 同企画は、沿道住民と行政との協議会を結成し、流水ルートの改良について議論したほか、流雪溝利用の実態調査、流雪溝投雪マニュアルの策定、都市圏からの投雪ボランティアの受け入れなどを実施した。
- また、地域内での共助体制を構築するために、沿道住民だけではなく、道路管理者、維持管理業者、地域団体とも課題意識を共有し、多様な団体を巻き込み、解決策を検討した。多様な関係者が協働体制を意識することで、流雪溝以外の雪処理に関する課題にも取り組めるよう工夫している。
- これまでの活動の中で、同企画が苦労した点は地域内での合意の形成である。周囲から、沿道住民は流雪溝管理者を担う必要はないのではないかという誤解を受けることが少なくなかった。しかし、地域課題の解決に向けた地道な活動を続けることで、結果として地域内の連携を強化することができた。

ボランティアの様子

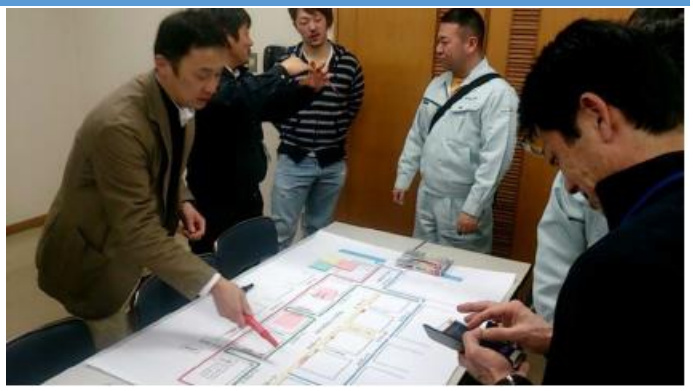
投雪の流れ

2 取組の平時における利活用の状況

- 同企画は今後の取組メニューを共有するため、業者や地域団体との意見交換を行っているほか、町民の地域内共助の意識を深めるための勉強会を開催している。

3 現状の課題・今後の展開等

- 流雪溝の利用方法の最終的な決定権は流雪溝管理運営協議会にあることから、今後の流雪溝利用の望ましいあり方を検討する機会である「流雪溝を考える会」で蓄積した知見やノウハウを実際の流雪溝の運用の改善メニューに引き上げるためには、協議会はじめ町、関係機関との連携をより強化していかなくてはいけない。同協会は今後、イベントや研修を通じて地域内共助を強化していく。



流雪溝を考える会の様子

担当者の声

雪国の町で住民の暮らしを支えるために取り組んでいます

- 流雪溝は、道路幅や生活空間を確保するための雪国ならではのインフラです。これは、地域住民が協働して投雪をすることを前提としています。地域内共助を構築しようとする私たちの取組は、過疎高齢化という社会変化に対応しており、町民の暮らしを立て直すために役立っています。
- 若手や中堅層を巻き込み、自身が地域社会を支えるという意識の醸成こそが、小規模自治体における国土強靱化にとって重要なことだと考えています。

問合せ先

苫前町まちづくり企画　法人番号:―
TEL 0164-65-3077 FAX 0164-65-3050　E-Mail shinkou@phoenix-c.or.jp